

リアリ、石州ノカモチノリハ、雲州ノカモチノリト同ジ、又ハチノスノリアリ、塊ニ竅穴多クシテ蜂窩ノ形ノ如シ、藝州ノ嚴島ノリ、同廣島ノリ、一名仁保ノリ、泉州ノムシロノリ、若州ノナマノリ、但州ノ瀬戸ノリ、一名但馬ノリ、城崎ノリ、同ハカリノリ、長州ノムカツクノリ、對馬ノアマノリ、同佐護ノリ、同鴨崎ノリ、越後ノ笠島ノリ、丹後ノ袖石ノリ、備前ノフヂトノリ、一名ウキスノリ、防州ノ三島ノリ、肥後ノ滿願寺ノリ、豊前ノ小倉ノリ、豆州ノ三島ノリ、奥州ノ仙臺ノリ、此外諸州ニ紫菜アリ、朝鮮ニハ紫衣ト云、又嚴寒ノ時雪中ニ採ヲユキノリト云、丹後越前越後等ニアリ、其紫黑色ナルヲ黒ノリト云、紀州石州丹後若州越前能州等ニアリ、

〔廣益國產考六〕海苔<sup>のり</sup>

海苔は何處の海河にも生ずるものなれども、其品いろくのわかちあり、先九州にては、水禪寺海苔と稱し、肥後の國より出る、是は水に生ずるよしにて佳品也、又同じのりにて、筑前國秋月より出る也、又但馬國木の崎邊の海より、淺草海苔に似たるもの産せり、紀州加多邊よりも出、三州渥見郡より和治海苔と號し、淺草同種のもの出れども、製あらし、爰に近年遠州舞坂の海に、大森同様に遠淺の所へ、ならの龜朶をさし、海苔を付る事を覺え、取て製し、諸國にも賣、京大坂へ送るよし、一ヶ年に三千兩餘の金子を收納するよしにて、舞坂の產物となれり、大森にて製する淺草海苔に付方製法方同流にて、其味ひも又替る事なし、世間に上品の海苔多しといへども、所の產物となり、潤へる程の事なし、淺草海苔は大金を收納するよし也、續て舞坂も收納多くなるよし也、此海苔は味ひ美にして、世間に多く出來たりとも、淺草舞坂などを押へて、害となることあるまじとおもへるまゝ、海苔をとりて利を得るは、漁をなし或は蠶を飼、又山より種々の金銀銅鐵鉛錫を掘出す道理にて、新田を開くもあたるべしと思ひこめしま、海苔の付方等を聞置るまゝを記すになん。